



COP30における森林分野の動向

林野庁森林利用課 藤本 泰樹

COME TO #COP30
VINDO(A) A #COP30

1. COP30の概要
2. 主な交渉議題と成果
3. 我が国の森林・林業に関する情報発信
4. まとめ



1. COP30の概要

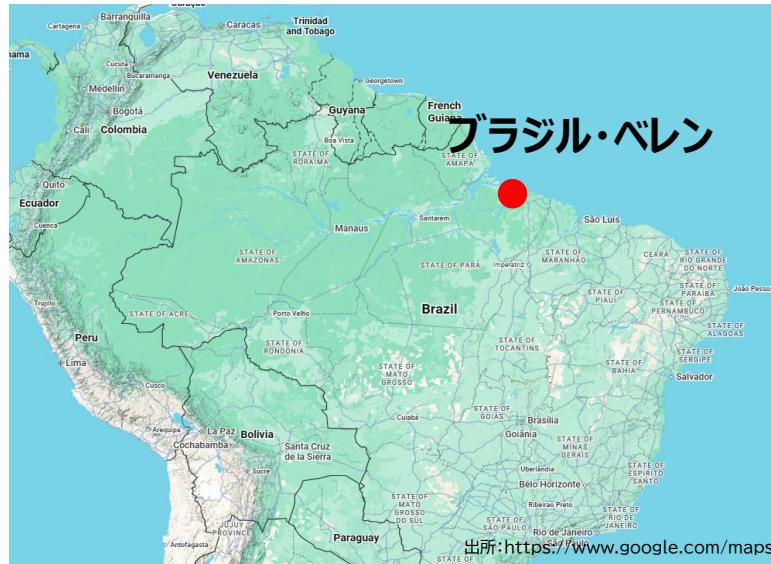
1. COP30の概要

気候変動枠組条約第30回締約国会議(COP30)

開催地: ブラジル・ベレン

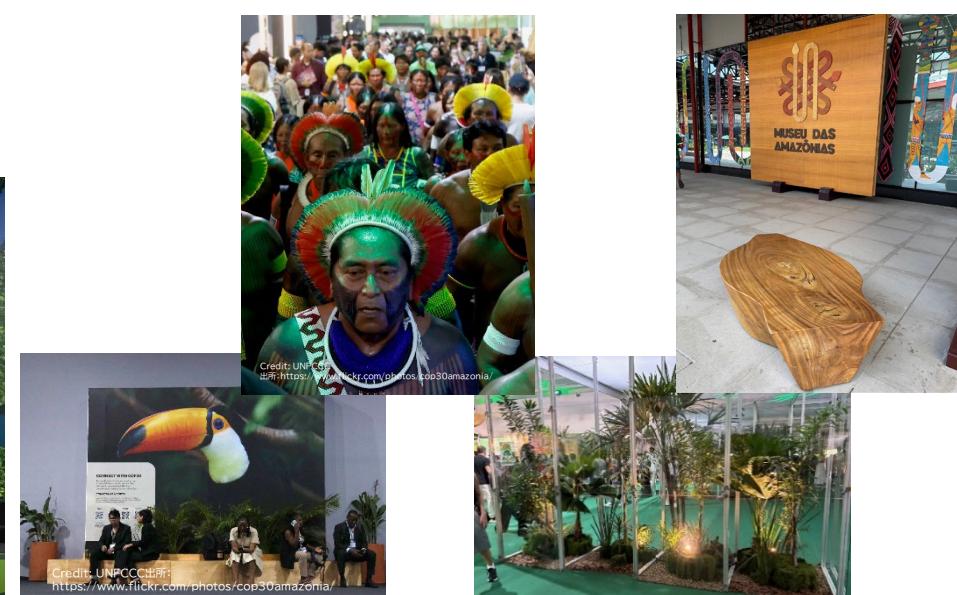
開催期間: 2025年11月10日~11月22日(1日延長)

- ・「アマゾン川の玄関口」であるベレンでの開催
- ・外務省、環境省、経産省はじめ政府職員が参加
→ 林野庁からは谷村次長を含む5名が参加
- ・我が国からは石原環境大臣が閣僚級会合に参加



1. COP30の概要

・「森林」への関心



延べ51万人超の入場 [事務局公表]

“この地域と森林を守るコミュニティに根ざした
気候変動解決策への世界的な関心を証明している”
[COP30特別事務局長]

参考: <https://cop30.br/en/news-about-cop30/the-amazon-takes-center-stage-in-the-global-climate-agenda-with-over-500-000-cop30-entries-1>

1. COP30の概要

— ブルーゾーン —

- 議題の交渉



プレナリー会場の様子



会議室の様子



- パビリオンの出展(イベント/セミナー開催)



会場の様子



フォレスト・パビリオンの様子

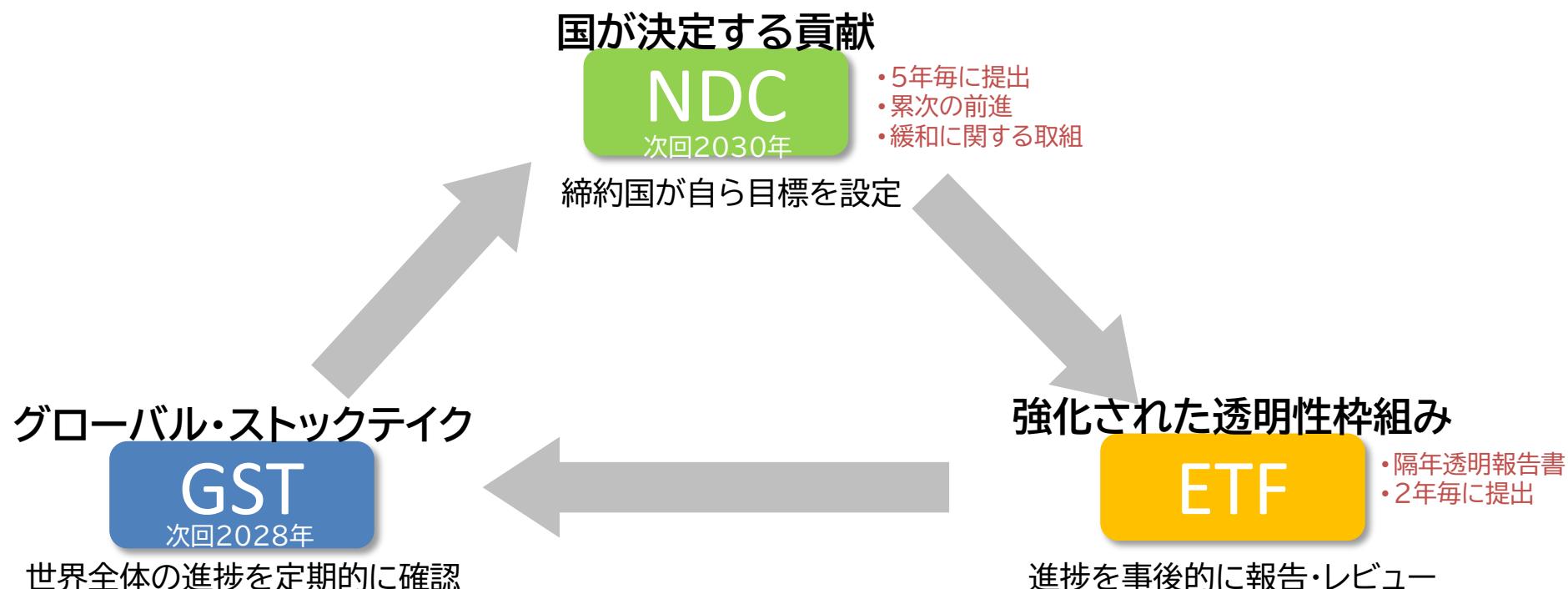
2. 主な交渉議題と成果



2. 主な交渉議題と成果

- ・ パリ協定の1.5°C目標に向けた努力を継続。パリ協定では、NDC・ETF・GSTのサイクルを構築。
- ・ 各国は5年毎にNDCを更新し、隔年で提出するBTRで進捗を報告。

— パリ協定の仕組み —



2. 主な交渉議題と成果

- 議長国ブラジルは、「ムチラオ(共同作業、協働、共に働く)」をテーマに掲げ、パリ協定の実施の加速と国際協力の進展について議論。
- 緩和や資金等の分野を横断し、特に関心の高い事項を取り上げた「グローバル・ムチラオ決定」が採択。
このほか、緩和や適応など交渉議題に関する決定も採択。
- 「グローバル・ムチラオ決定」と各主要議題の決定をまとめたものを「ベレン・ポリティカル・パッケージ」と呼称。

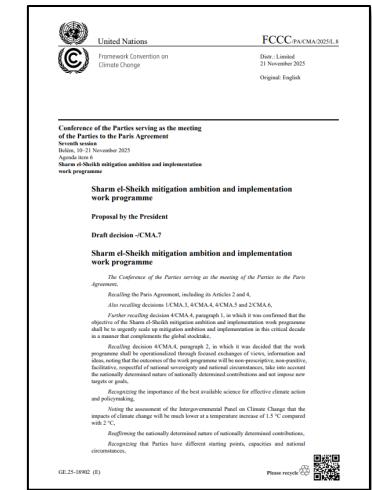


2. 主な交渉議題と成果

— 緩和作業計画 —

【背景】

- 2030年までのGHG排出削減・吸収促進の強化を目指したもの。年2回の「グローバル対話」を開催。
- これまでのグローバル対話のテーマは、GHG削減や再エネ導入等が中心であったが、本年5月は「森林」をテーマに開催。



決定文書

【成果】

- 「グローバル対話の成果」や「2026年以降の緩和議題継続」等を議論。
- 決定文書には、「グローバル対話の成果」として、森林が吸収源・炭素貯蔵庫として果たす重要な役割に加え、気候変動対策と生物多様性保全との相乗効果、持続可能な森林経営の重要性等が明記。

2. 主な交渉議題と成果

– パリ協定第6条 –

- ・ パリ協定の市場メカニズムは、締約国が協力して対策を実施し、得られた追加的な排出削減等の成果を国際移転し、協力した国や企業等で分配・移転できる仕組み。
- ・ COP30では、各国の実施状況や審査手続き等を中心に議論がされ、経験共有のために非公式対話の開催が決定。

– グローバル・ムチラオ決定 –

- ・ 自然及び生態系の保全・保護・回復の重要性が強調され、パリ協定5条に従い2030年までに森林の減少・劣化を停止・好転させる取組の強化等が記載。

– その他 –

議長国ブラジルは、森林の減少・劣化を停止・好転させるための「森林ロードマップ」を今後作成することを口頭で発表。

3. 我が国の森林・林業に関する情報発信 @ジャパン・パビリオン



3. 我が国の森林・林業に関する情報発信

我が国の温室効果ガス排出削減・吸収の実績と目標

2025年改定	2040年度目標
日本のNDC	73%削減(2013年度比)
森林吸収源対策 (地球温暖化対策計画)	5.1%吸収(2013年度比)

森林吸収量の計上方法

1990年以降に人為的な活動が行われている森
林におけるCO₂吸収量を計上



1990年

森林整備



国産材の利用について、炭素貯留機能を評価



CO₂

森林
から
搬出



木材利用

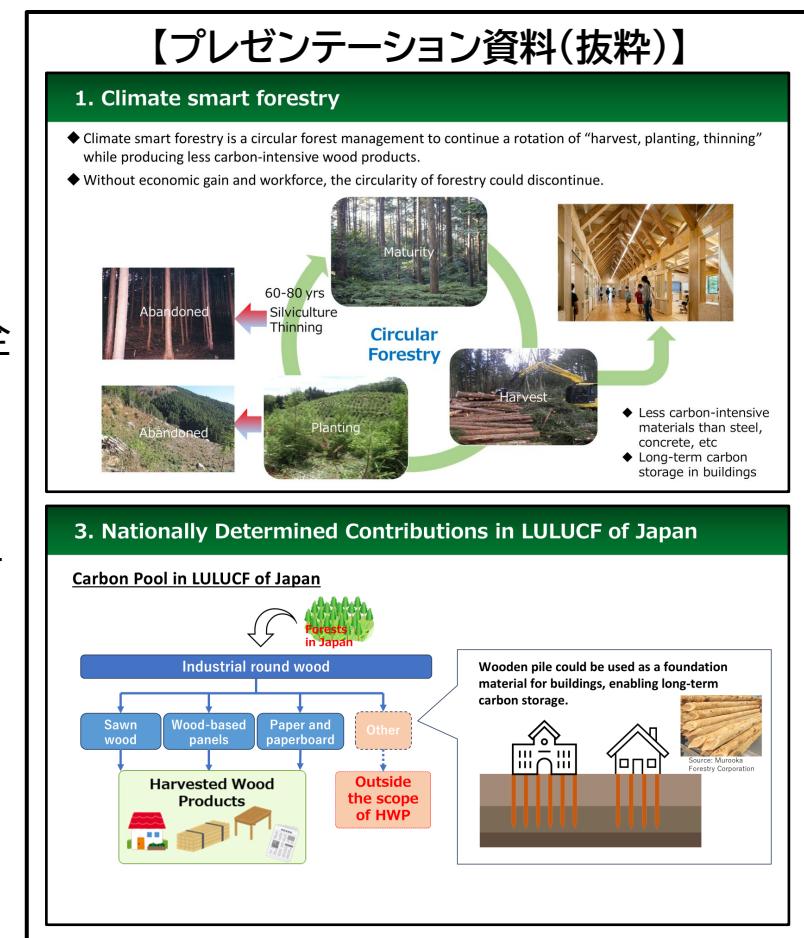


さらにエネルギー利用
すれば化石燃料代替

「観測とモデルによる森林吸収源を含むGHG収支の広域監視」

【ジャパン・パビリオンセミナー:林野庁主催、東京大学・森林総研・環境省共催】

- ネット・ゼロの実現に向けて、温室効果ガス(GHG)の広域的な監視に焦点を当て、国際的な取組の一層の推進を図ることを目的としたセミナーを開催。
- 林野庁谷村次長からの開会挨拶。東京大学伊藤教授、林野庁藤本専門官、森林総合研究所橋本チーム長、クリュック GCOS(全球気候監視システム)議長、トウビエロ FAO チーム長(オンライン)の計5名がGHGの監視に貢献するそれぞれの取組を紹介。
- 林野庁からは、我が国の森林の現況とJ-クレジット制度や木材製品の炭素貯蔵効果など森林吸収源対策に係る取組を発信。



「気候変動危機の時代における森林の役割」

【ジャパン・パビリオンセミナー:森林総合研究所主催、林野庁・国際熱帯木材機関(ITTO)共催】

- 気候変動における森林の役割を再認識することを目的に開催。
- 林野庁谷村次長及びITTOサックル事務局長(ビデオメッセージ)より開会挨拶。
- 東部アマゾンブラジル農業研究公社(Embrapa)マッセイ林業技師、コミュニティ森林経営のためのアフリカ女性ネットワーク(REFACOF)ンジェベト代表、林野庁岡林課長補佐、森林総合研究所平田研究専門員の計4名が、森林を活用した気候変動の緩和・適応や地域社会へ貢献する取組について発表。
- 林野庁からは、我が国の持続可能な森林経営と木材利用に関する取組を発信。

【セミナー写真】



【セミナー詳細に関するウェブサイト】

ITTO: [COP30 気候危機対策における森林の重要性を前面に](#)

森林総研: [COP30関連セミナーの開催](#)

ジャパンパビリオン: [気候危機の時代における森林の役割](#)

4.まとめ

- ・ 「アマゾン川の玄関口」であるベレンでの開催。
→ 「森林」への関心が高まった会合
- ・ 交渉議題の「緩和作業計画」では、
森林の気候変動へ貢献する役割だけでなく、
気候変動対策と生物多様性保全との相乗効果や
持続可能な森林経営の重要性について、決定文書に明示。
- ・ 林野庁からは、持続可能な森林経営と木材利用を通じた森林
吸収源対策など、我が国の取組を幅広く発信。